

第38回  
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

おうみはちまん  
滋賀県近江八幡市～  
おきしま  
沖島

## 日本で唯一、湖に人が暮らす島

### 沖島

日本最大の面積を持つ湖「琵琶湖」。その琵琶湖内で人が暮らす島があるのをご存知でしょうか？「面積1.52km

周囲6.8km、人口288名(平成28年4月1日現在)、近江八幡市の対岸から約1.5kmに浮かぶ小さな島。その名は「沖島」である。

### 沖島の抱える課題

島民の約6割が琵琶湖の湖魚を捕る漁業を生業なりわいとしている沖島では、65歳以上の高齢者率が50%を超えており、若者の島外への流出による後継者不足が最大の課題となっている。近江八幡市総合政策部長の青木勝治さんはこの状況について、「平成25年に離島振興対策実施地域の指定※を受け、これを機に沖島の抱える課題を島民と協力しながら乗り越えるため、より一層、沖島の振興に取り組みことにしました。最近メディアで紹介される事もありますが、まだまだ知名度は高いとは言えません。まずは沖島を知り、来てもらい、そして好きになっていただきたい。そのためには行政として何ができるの

か、何をすべきなのかを考えないといけません」と危機感を持ちながら語る。

### 「しまっちゃんぐ」への参加

沖島の魅力や特色とは？——新鮮な湖魚。自動車一台も走っていないので公害が少ない。近江八幡市対岸から通船で約10分、1日12往復(休日1日10往復)、京都からも約1時間と交通の便も悪くはない。——素材としては良いものが揃っているが、これらを全国にPRする術を持ち合わせていなかった。

そこで近江八幡市は、国土交通省が募集した離島と企業をつなぐマッチングイベント「しまっちゃんぐ2016」への参加を決めた。この参加をきっかけに、ある一人の人物と出会うことになった。他の離島で、その島の産物を活用した特産品の開発事業を手掛けた経験を持つ「コープ生協おきなわ」の石原修さんである。この出会いをきっかけに石原さんと島の代表者、市役所が協議する中で、一つの事業が始まる。島内唯一の学校「沖島小学校」の子どもたちが企画をして、島の産物を使った特産品を開発する「沖島子どもチャレンジ特産

※ 離島活性化交付金の交付など、離島振興法に基づく特別の措置が講じられる。平成28年4月現在、78地域(260の有人離島)が指定されている。

## 離島と企業をつなぐ「しまっくんぐ」の概要

- 離島と企業をつなぐ「マッチング」の場を提供
- 離島と企業との連携は、地域課題を解決する1つの手段
- 対話重視のマッチングにより、離島活性化のための事業につなげる

### < 離島地域 >

- ・ 島を活性化したい
- ・ 島の魅力をもっと活かしたい
- ・ 外の企業と交流する機会が少ない

### < 民間企業(島外) >

- ・ 島と事業を立ち上げたいが、島のこと良く分からない
- ・ 島に貢献したいがつながり方が分からない

## しまっくんぐ

- マッチング・交流(ワークショップ、交流会の開催など)
  - 情報発信・共有(ポータルサイトの立ち上げ、取組事例の共有、PRなど)
- 離島と企業をつなぐプラットフォーム

課題解決 離島と企業による事業の実施

## 離島の活性化



品開発事業」である。特産品は、長期保存がきいて、既存の冷蔵・冷凍施設を利用でき、そして子どもたちに親しみがあるアイスクリームに決まった。

不安は確信へ

石原さんは語る。「当初、今回の事業に不安がなかった訳ではありません。沖島と

### 第1回目のワークショップ

「アイスクリームに入れる沖島の特産品」「儲けが出たら何に使うか」などを児童が発表



コープおきなわ 石原さん

石原さんの説明を真剣に聞く沖島小学校の児童たち。まさに「共同経営者の顔」



いつ地名を初めて知り、その島内の小学生が商品開発を行うことに面白みを感じながらも不安もありました。しかし、本年8月に行われた第1回目のワークショップで不安を払拭できたと話す。「子どもならではのユニークな発想(アイスクリームに湖魚を利用など)、沖島への熱き想い、前向きな話し合い、活き活きとした表情を見るにつけ、商品化への確信が持てました」

### 沖島小学校



年2回オープンスクールを開催するなど島外からの児童の受け入れも積極的



「全校児童15名の個性を直で感じることができる」と語る森本校長先生

### 全校児童で取り組む

全校児童わずか15名(島民2名、島外から13名)の沖島小学校森本眞左子校長先生が語る。「児童たちが商品企画を担う今回の事業提案を受けた時「面白いね」と感じました。低学年の児童では分からないことも多分にあります。携われることもたくさんあります。全校児童で企業や島の方々と共に「何年も持続できる商品化」に向けて一生懸命取り組んでいきます」

### 子どもたちの夢を叶えるために

島内の産物を活用したアイスクリーム作りは、島民の協力無しでは成り立たない。島

内で採れる「サツマイモ」を加えることを検討しているが、小学校の畑だけでは収穫量は限られている。この島民の大半は漁業に従事していて専業農家は一軒もない。漁業を終えてから畑に繰り出すため収穫量も豊富とは言い難い。しかし「子どもたちの夢を叶えてあげたい」という思いから、協力することを決意し収穫を開始した。

### 本年度特産品完成予定

今後もワークショップを行い、県内の「コープしが」や東近江市にある「有限会社池田牧場」にアイスクリーム製造の協力も得ながら、本年度完成を目指して関係者全員一致団結で取り組んでいる。

### 「もってきて沖島」

「もってきて」とは「帰ってきて」や「戻ってきて」を表す島の方言である。人口減は切実な問題であると沖島町離島振興推



県外から願證寺へ嫁いできた本多事務局長。島の人に恩返しをしたいと語る。



沖島町離島振興推進協議会

島内放送で協議会が招集



西福寺の住職でもある茶谷会長。沖島の歴史について精通している。

進協議会会長の茶谷文雄さんは語る。「昔は漁業に休日などありませんでした。しかし今は、休日もあり働きやすい環境に改善してきています。孫の代がこの島に帰ってきてやすい環境作りをするのが私たちの役目です。また、島外の人にも沖島を知ってもらいたい好きになってもらうために、何をすべきか今後も協議会で議論を重ねていきます」

事務局長の本多有美子さんも「今のうちに何とかしなければいけないと感じています」と語る。点在する空き家の活用や、沖島ファンクラブ「もんで」の会員募集、観光客へ向けての沖島ルールの設定や、島の周囲を約40分かけて一周する遊覧船「もんでクルーズ」の運航（4〜10月までなど）、定住者増や観光客増へ向けての努力を惜しまない。

車も無ければ、信号もない。無いものが多い島ではあるが、これを短所ではなく長所と捉えて、ゆつくりではあるが着実に一歩一歩、懸命に取り組んでいる姿が、取材を通じて随所に伺い知ることができた。桜並木が美しい沖島。今度は、桜の咲く頃「沖島特産アイスクリーム」を片手に春の沖島を巡りたい。



⑨見景山 / 「ケンケン山」と呼ばれて親しまれている。琵琶湖を内側から見渡せる

⑪「シダ」の海

⑩dの木 願いを言葉にしてくぐると「聞いてくれる」



⑦弁財天

⑫沖島漁港 沖島の玄関口。春には桜並木が来島者をお出迎え



三輪車・自転車 車がないので島民の足代わり。サドルには雨よけの缶を乗せている

③いっぶくどう 古民家を利用。家庭的な味が楽しめる。



④西福寺



②汀の精 / 琵琶湖の固有種「ホンモロコ」などを堪能



①湖島婦貴の会 湖魚を使った美味しいお弁当などが楽しめる。琵琶湖の恵みが詰まったお土産も販売。



⑥奥津嶋神社 高台にある神社からは、沖島のまちは見渡せる



⑧沖島郵便局 / 「沖島漁師船」と「琵琶湖の鴨」をデザインした世界でたった1つの消印(写真左)



① 拡大

